

継続している活動に加え、新たな取組みをスタート

安全運転普及本部 事務局長 吉田 宏樹

重点課題

今年度は、新たな3ヶ年計画のスタートの初年度にあたり、「先進性・独自性のソフト開発による、戦略的な普及活動への転換」を方針と定め、以下の3つの重点課題に取り組んでまいりました。

1. 教育ソフトウェアの開発と導入
2. 普及活動の変革と進化
3. 進展国 二輪事故低減の実現

1. 教育ソフトウェアの開発と導入

「車両安全技術からの実践教育の開発と導入」

Hondaは「事故ゼロのモビリティ社会の実現」を「ヒト」「テクノロジー」「コミュニケーション」の3つの柱で取り組んでおります。その中で、事故軽減のテクノロジーを広く普及させることは当然ながら重要ではありますが、一方でその機能を正しくお客様にお伝えすることも真の安全に向けて、とても重要なことと考えております。

初年度は、シティブレーキアクティブシステム(CTBA)を取り上げ、現在、安全運転教育プログラムとして開発を進めております。危険を安全に体験する参加体験型の実践教育という手法で、今後Hondaの交通教育センターをはじめ、様々な場で提供できるように展開してまいります。

「SAFETY MAPの利用拡大に向けて」

SAFETY MAPは地域住民の皆様をはじめ、小・中学校や企業などの団体が地域の安全活動に活用できることを目的としたソーシャルマップです。Hondaがインターナビから収集した急ブレーキ多発地点データと、交通事故情報および地域住民の皆様から投稿される危険スポット情報を地図上に掲載しています。

私どもは、このSAFETY MAPを危険箇所にご注意を払うということだけでなく、具体的な道路環境の改善につなげて

いく試みを今年度進めています。この取組みは私どもの機関紙「SJ」に掲載しておりますので、引き続きご注目ください。

「高齢者(歩行者・自転車)の教育ソフトウェア開発」

交通事故の死者数(24時間以内)は、昨年まで13年連続で減少していますが、一方で死者数に占める高齢者(65歳以上)の割合は年々増加しており、昨年は全体の52.7%に達しました。

私どもは、高齢者向けの教材を各地域の交通指導員の皆様に提供しておりますが、上記の状況から、実際に高齢者の皆様に交通安全を伝えている地域の交通指導員の皆様からのご意見や現在の交通環境、事故形態を踏まえ、新たな教材開発に取り組んでおります。

今年は各地域の交通指導員の皆様にご参加をいただき、新たな教材開発に向け、それぞれのテーマに沿って意見を出し合っていたく場を設けました。ご協力いただきました交通指導員の皆様に厚く御礼を申し上げますと共に、今後関係する皆様と連携した活動を継続的に進めていきたいと考えております。

2. 普及活動の変革と進化

「障がいをお持ちの方を対象にした安全運転の取組み」

私どもは昨年、高次脳機能障害の方が、クルマの運転を通して社会復帰されることへの支援を目的として、「自操安全運転プログラム」を開発いたしました。

一方現在は、高次脳機能障害の方が運転をスタートないし再開するにあたっての明確な評価基準が無く、現場で携わっている方々の大きな課題となっております。私どもは「リハビリテーション向け運転能力評価サポートソフト」や「自操安全運転プログラム」の提供だけでなく、運転復帰プロセス全体に対する支援を今年度スタートいたしました。

また、障がいをお持ちの方だけでなく、高齢化の進展に伴い、リハビリセンターや病院、デイケアサービスへの車による送迎も増えていることから、こうした移送時における安心安全の確保にも今後、積極的に取り組んでまいります。

「地域に密着した販売会社の交通安全活動への支援」

私どもの普及活動は、地域の交通指導員の皆様をはじめ、様々な関係団体の皆様のお力で成り立っていると云っても過言ではありません。そうした中で、今年度はHonda Cars(四輪販売会社)との連携を強化し、Honda Cars各社の交通安全活動による地域貢献の支援を進めております。これは今後、普及活動の場と機会の拡大を図っていくための重要な取組みと認識しております。

「交通安全の普及拡大に向けた場と機会の創出」

普及活動の場と機会の拡大に向けては、新たなチャレンジも進めております。それは他業種との連携による交通安全教室の開催です。今年度は初の試みとして、大規模レクリエーション施設やショッピングモールと連携し、実施しました。これらの結果を踏まえて来年度の取組みに反映してまいります。

3. 進展国 二輪事故低減の実現

今年度は昨年度に引き続き、インドへの支援を進めています。ご存知のようにインドは二輪車の事故が急増しており、その市場規模の大きさからも現在最も事故低減に取り組む必要がある国の一つです。昨年度は教材などの提供や中期計画の立案を支援し、今年度は交通安全の指導者育成の支援を進めております。

2015年に向けて

冒頭に申し上げましたように、今年度から新たな3ヶ年計画がスタートし、昨年から継続している活動に加え、新たな取組みもスタートできました。

3ヶ年計画は3つの重点課題を中心に、一貫した取組みを進めますが、新たなテーマにもチャレンジし、スピードと具体的な効果創出をめざして進めてまいります。

関係各位のご協力に感謝申し上げますと共に、来年もご支援、ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。



※各重点課題ごとの活動内容の詳細につきましては、次ページ以降に記載しております。